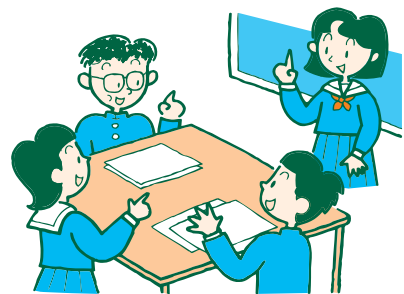


3.小・中・高等学校段階におけるポイント

○ それぞれの時期にふさわしい、「自然体験とその実感」「多様性の認識」「協働体験・自己有用感」をもつことができるようにし、その中で「いのちの尊厳」について教えていく

- ① 子どもが自分で判断し、選択する場面を大切にすること。
- ② 動植物を育てる体験を通して、その苦労や喜びを味わわせること。
- ③ 「失敗したときこそ成長する」と心に刻み、温かい言葉をかけ、再び挑戦することを支え、見守ること。
- ④ 「生きているものには必ず死が訪れ、死んだいのちは二度と生き返らない」、だからこそ「いのちはかけがえない」という真実をしっかりと教えること。
- ⑤ ルールは、「自他を大切にするため」に作り、守り、改善していくものだというように、実践を通して気づかせること。
- ⑥ 男女、年齢、国籍、障害の有無などのちがいを越えて、共に活動し支え合う中で、お互いのよさを感じられるようにすること。（幼児との交流等は大きな効果がある。）
- ⑦ 返事や挨拶、目上の人などに対する礼儀正しい言葉遣いや態度が身に付くよう、繰り返し教えること。
- ⑧ 友だちや地域の方とのかかわりの中で、「自分のできることは精一杯やり、苦手なことは助けてもらい、心から感謝する」体験を重ねること。



4.高等学校(中学校)から社会にはばたく段階でのポイント

○ 「社会における役割の自覚・生きがい・感謝」などの思いを感じられるようにする

- ① 「働く」ことを通して、自分のよさを生かして人の役に立つ喜び、成し遂げることの難しさや成就感などを味わえるようにすること。
- ② 近い将来、自分が親として、子どもを産み育てる主体になるという自覚を育て、男女がお互いのよさを生かし合い、支え合うことの大切さや、家庭生活を築いていく上で必要なことなどを伝えていくこと。
- ③ きちんとした挨拶や返事が、よりよい人間関係を築くために役立つということを、社会体験を通して再認識できるようにすること。
- ④ 社会の負の側面（詐欺行為、薬物の危険性など）についても目を向け、危機を事前に回避したり、出会った時に適切に対応したりする力を育てること。（場合によっては、小中学校段階で教えることが必要なこともある。）



5.社会に出て、経験を積み重ねた段階でのポイント

○ 「次世代を育てる、生涯学び続ける」意識をもつ

- ① 親として、子どもに生きる喜びと知恵を伝えていくこと。
- ② 職場や地域などで、後輩たちを見守り、励まし、育てていくこと。
- ③ 生きがいをもち、生涯にわたって学び続けること。（NPO活動やボランティア活動など、人と人とのつながりを深めながら、地域づくり・社会貢献をしていくことも含む。）

